

会 議 録

1 会議名

令和6年度第8回三和区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的な審議（公開）

- ・自主的審議事項について

（2）報告事項（公開）

- ・令和7年度三和区における主な事業について

（3）その他（公開）

- ・令和7年度三和区の主な行事カレンダーについて

3 開催日時

令和7年3月24日（月）午後6時30分から午後8時00分まで

4 開催場所

三和コミュニティプラザ 3階 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：高橋（鉄）委員（会長）、龍池委員（副会長）、五十嵐委員、池田委員、江口委員、高橋（恵）委員、星野委員、牧井委員、松井委員、松栄委員、宮澤委員、宮嶋委員、茂木委員、渡邊委員（14人中14人出席）
- ・事務局：三和区総合事務所 小林所長、丸田次長、羽深市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、小山地域振興班長、渡辺副主幹

8 発言の内容（要旨）

【丸田次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務める

【高橋会長】

- ・挨拶

会議録の確認について、「松井委員」にお願いします。

それでは、「3 自主的な審議」に入る。これまで、協議会終了後の勉強会でAグループ、Bグループに分かれて「自主的な審議に向けた地域課題の把握について」ということで話し合ってきた。その結果を各グループのリーダーから発表いただく。

まず、Aグループからお願いします。

【星野委員】

Aグループは、「農業」と「防災」という2つの項目にまとめた。私は、「防災」の項目として『区を越えた地域協議会代表者との懇談会や勉強会』の実施について発表する。高田平野東縁断層帯は、頸城区、吉川区周辺から三和区、三和区から妙高市に断層が伸びている。私の今の考えでは、三和区だけで話し合いするのではなく、頸城区、吉川区、三和区、牧区、清里区、板倉区の6つの地域協議会の会長、副会長と7月頃までに協議し、三和区で9月頃までに意見をまとめたい。まだ構想段階だが、地震の専門家の講演会を秋頃に開催する年間計画を考えている。それが良い方向に行けば、今度は、お互いの区から出たものを発表しブラッシュアップした防災体制をつくりたい。

【龍池副会長】

私からは、「農業」の項目として『三和区まるごと収穫祭』『三和区まるごと市』などの実施」ということで、収穫祭を提案したい。先日、三和中学校へ訪問し、生徒たちの発表を聞いた時に、この自然環境を守り続けていかなければならないと強く思った。農業というのは、田んぼの手入れ、果樹なども手を加えることによってその環境を守ることができると思っている。その農業者と一緒に関わる祭りをすることで、皆さんが楽しめると思った。三和区は、認定農業者という会があるので、農業者が主体となって一緒に進めたいと思っている。

【茂木委員】

去年の秋の文化祭の時に、駐車場でJAも参加して、地元の農家さんたちが地場産物を直販していた。また、板倉区はJAの収穫祭と合わせて、地元のお祭りのような収穫祭というものをやっているが、そういうものとは別の企画を考えているのか。

【龍池副会長】

J A窓口からのスタートではなく、農業者の窓口でスタートしたいと思っている。J Aと付き合いのない農業者も実はたくさんいて、果樹は全くJ Aとつながりが無い。でも、それぞれがいろいろな人脈を持っていると思う。別の収穫祭として考えている。

【茂木委員】

振興会が文化祭をされているので、J Aに入っているか入っていないか関係なく、いろいろな方が来て販売はできると思う。お客さんの立場で言うと、J Aの加入・非加入は気にしていない。秋にある収穫祭という同じようなイベントが2回あると、お客さんが分散してしまうような気がするので、もしするのであれば、大きなイベントを1回にした方が集客力は高まると思う。

【松井委員】

Aグループでどの程度まで議論したのか分からないが、総論的に見える。それと、他の地域協議会とどのように進めていくのかが分からない。地震の説明的なものなのか、防災的なものに対してなのかをはっきり聞かせてほしい。

【星野委員】

以前から言っているように、ここに断層帯があって、断層帯から起きる水害、ため池の決壊、川の氾濫など、地震があったときの防災に関してのことは行いたいと思っている。他の協議会とは事務局を中心に一緒に進めていきたいと思っている。

【松井委員】

地域協議会の代表者2、3人という捉え方だと思うが、こういうことをやる時に大勢の人たちと意見交換をすることが一番大事と思う。一部でやっても効果が見えない。それと、防災という全体的なことになると行政や町内会と連携を取らないと、私どもだけで先走りになる。

【星野委員】

大勢の人たちと意見交換をする前段階として、地域協議会の会長、副会長など代表の方ととっかかりの話をしたい。防災は、避難計画や老人の問題など、いろいろな問題が絡んでくると思うので、事務局と一緒に考えていきたい。

【高橋会長】

詳細については、これから協議をしながら柔軟に対応したいということで受け止めていただきたい。Bグループからいくつ提案的なものが出るか分からないが、できるだけ2つくらいに絞りたい。それでは、Bグループの江口委員お願いする。

【江口委員】

Bグループとしては、いろいろな意見が出ているものの、まとめることができなかった。なお、社会福祉協議会の地域福祉活動計画ブロック懇談会に4か所参加したが、そこで予想どおりの意見がでてきている。

1点目「三和区の上沼道開通等に向けた上越地区の長期的観点を学ぶため、上越市創造行政研究所から講師を招き勉強会を開催する」。三和区としての強み弱みを知る勉強会等が必要ではないか、その先には地域全体で地域の魅力を発信するような取組、講演会等も含めて必要ではないかという意見も出てきている。

2点目「少子高齢化による地域コミュニティの維持について仕組みづくりが必要」。人と人とのつながりがうまくできず、地域活動ができないという現状があるが、三和区ではいろいろな団体によるイベントを行っているし、その内容を整理して、一度見直しを図った方がいいのではないかと。それから、住民一人一人ができることを生かしたイベントに参加できる仕組みづくりということで、出来上がったイベントにただ参加するのではなく、そのイベント自体に自分は何ができるのかという視点で、積極的に参加できるような仕組みづくりが必要ではないか。また、地域を挙げての高齢者、ひとり世帯の生活支援の必要性があり、特に冬場の雪の問題は各町内会長の負担になっている。集落行事を継続して活動を実施するには、1町内会だけではなく、近隣の町内会同士の交流の場、協力体制を広げてやったらどうか。30代～40代女性など若手が参加できる活動は必要である。

3点目「地域課題解決に向けて」。空き家の問題が非常に多い。誰も手をつけられなくなっている状態が今後出てくる可能性があり、地域として何か手を打つべきではないか。また、畑や山林の放棄地の増加が問題となっている。

【高橋会長】

今話のあった、上越市創造行政研究所の勉強会について、できる範囲で事務局説明いただけるか。

【丸田次長】

事務局で創造行政研究所に打診したところ、快く了解をいただいた。日程調整ができ次第、開催できるという状況である。

【高橋会長】

1点目の「上越市創造行政研究所から講師を招いての勉強会開催」は進行中と確認し

た。3点目の「地域課題解決に向けて」は、Aグループの「農業」の項目と一緒に考えてはどうか。2点目の「少子高齢化による地域コミュニティの維持」について意見を求める。

【松栄委員】

コミュニティを維持するために、いろいろなイベントに一人でも多くの人に参加してもらいたいという思いが見えるが、イベントを企画しても参加者は決まっている。もし、30代、40代の女性が参加できる活動を企画したとしても、その人たちが喜んで出てくるか疑問。時代はそうじゃないような気がする。イベントを企画して、そこに来てくださってというような感じではなく、やりたい人が企画すればよいのではとも考える。交流の場をつくってあげようとか、活動に出てきてもらうためにこういう企画を設定しようということについて限界を感じている。

【高橋会長】

今までのイベントは、今言われたような感じだった。これからイベントを企画するには、関わりのない人たちに何か役割を持たせるといった参加しやすい仕組みを考えるのも一つかと思う。

【五十嵐委員】

若年層は、他人と関わりを持たなくても自分で生活ができています。敢えて人との関わりを避けているのではないかと。40代、50代の方は、若い頃は青年団や商工会など外部団体があって、地域、年代を超えて交わっていたが、今はその外部団体自身が消滅してきている。そこら辺から攻めていくのもまた一つの手ではないかなと思う。

【松井委員】

私たち地域協議会は、人をどうこういう前に自分自身がいろいろなことに参加しようという気持ちをまず持ったらどうか。議論だけだと物事が前進しない。地域福祉活動計画ブロック別懇談会の中で、例えば「自然環境が地域的に恵まれている～地域性を活かした工夫」ということを言われていた方がいて、体験農業とか民泊とかあるが、自分自身がアクションを起こしていくことを考える必要がある。結果を恐れず小さな動きから活動を続けることだ。

【星野委員】

少子高齢化による地域コミュニティの問題は、全て防災にも当てはまる。避難訓練をしても元気な人は出てきて肝心な人は出てこない。高齢者世帯の避難訓練が一番大事だ

と思う。その時になってからでは遅いので、そうなる前に地域で大事な結びつけをするということは高齢者の避難に大事だと思う。いろいろな横のつながりを持つ必要がある。観光が良い例で、自分の所だけ来てもらおうとしても駄目で、地域一体でPRしておく必要がある。市、区、町内、隣近所など横のつながりをどうやって持つかを考えていけたらいいと思う。防災にも通じるところである。

【高橋会長】

この辺でまとめたい。

【小林所長】

防災の関係について、三和区地域協議会の中で自主的審議事項とするのは問題ない。ただそれをどの程度、他の区と連携を図ったり情報共有をしたりするかについては、事務局レベルで調整が必要になる。

【高橋会長】

そのとおりだと思う。少子高齢化、空き家、耕作放棄地も含めて、さまざまな意見の中に防災があるという捉え方でまとめていきたい。この意見を基に事務局と相談し、次回の地域協議会に、審議事項の「件名」「概要」などの文言を整理し、提案したいと思う。

まとめに入る。正式な「件名」は変わるかもしれないが、Aグループの「農業」の項目として『三和区まるごと収穫祭』『三和区まるごと市』などの実施』を自主的審議のテーマにしたいという提案がある。

【松栄委員】

イベントを行う事を自主的審議にするのではなく、「私たち大人の責任…『三和区の自然環境（里山）を守り続け、次に繋げるための具体的な行動』」ということを自主的審議事項にして、その中の提案として、「まるごと収穫祭」があるということにした方が、広くいろいろな提案が出てくるのではないか。

【高橋会長】

今の意見を参考にする。2つくらいにしたいと思うので、こちらも「件名」は変わるかもしれないが、もう一つはAグループの「防災」の項目『区を越えた地域協議会代表者との懇談会や勉強会』の実施』でよいか。

【五十嵐委員】

松栄委員が言われたように、一つの議題があって、その中に各項目がある方がいいのではないか。

【高橋会長】

自主的審議は地域協議会の中で話し合いを始めて、必要に応じて他団体との意見交換をする。そして財源を求めるのであれば、実施いただく団体と連携し、地域独自の予算事業に結び付け、来年度実施したいとなれば8月末までには確実に骨子を固めないといけない。または、市に意見書として提出する方法もある。

【星野委員】

財源のことを考えると先が長い話になってくる。財源が必要なものと必要でないものと2つに分けて考えたらどうか。

【高橋会長】

それは、協議の中から生まれるもので、固定しない方がいい。

【松井委員】

まだ自主的審議が始まっていない状況の中で、財源云々の議論をするのは違うと思う。現段階では、区を越えた地域協議会との活動は考えるべきではないのではないか。案としてはよいと思うが、どのような文言にするのか。

【丸田次長】

「防災」の項目の「区を越えた」というところが引っかかるということだと思う。防災は、Bグループの「地域コミュニティを維持するための仕組みづくり」に含まれると思うので、それを大きなテーマとして、その中の1つに防災がある、イベントがあるといった細かい話に結び付けていく方針でどうか。

【高橋会長】

自主的審議の「件名」「概要」などの文言は、事務局と整理し、次回の地域協議会に決定する。それでは、2つのテーマを2グループに分かれて話し合うため、グループ分けをする。

・各テーマのイメージと委員のグループ分けを次のように決定

①自然環境、農業、収穫祭等について話し合うグループ

龍池委員（副会長）、五十嵐委員、池田委員、高橋（恵）委員、松井委員、松栄委員、宮澤委員

②地域コミュニティの維持等について話し合うグループ

高橋（鉄）委員（会長）、江口委員、星野委員、牧井委員、宮嶋委員、茂木委員、渡邊委員

【高橋会長】

それでは、「4 報告事項」に入る。「令和7年度三和区における主な事業について」事務局から説明をお願いします。

【丸田次長】

・資料No.1により説明。

【高橋会長】

質問等あるか。

【松井委員】

「16 小中学校市単独事業」の「旧上杉小学校、旧美守小学校の草刈り業務委託ほか」について、業者に委託するのか町内会に声掛けするのか。

【丸田次長】

上杉小学校は、地元の町内会が組織を立ち上げてやるという意思表示があったので、そこをお願いをする予定である。美守小学校は、町内会へ投げかけをしたものの話がまとまらず、業者の見積りを取っている。ただ、業者委託は高額になるので、町内会が無理だとすれば、地元の農業法人等へ働きかけをしたいと思っているが、今はまだ調整段階である。

【松井委員】

学校を核としたという捉え方の中で、廃校をどうするかという課題は皆さん持っていると思う。美守小学校のさまざまな行事等に関係していた江口委員から、地域でできないかということを再度、町内会へ働きかけるなど検討する余地はないのか。

【江口委員】

今の件に関しては、美守地区の町内会長が集まって相談して、どうするかを決められたと私は聞いている。現状でやることはできると思うが、将来的に考えてみた場合、今の若い世代やPTAの方々が、この先そういう業務をやっていけるかということを検討した結果と聞いている。町内会長だけの考えではなく、地域の皆さんの考えの総意がそういう結果になったのではないかと聞いている。

【松井委員】

上杉小学校は、廃校後どうするかについての動きの中でそのような形になった。美守小学校について、江口委員から働きかけるつもりはないか。

【江口委員】

今の時点ではない。あくまで町内会長の皆様方の総意のもとで決定しているので、それを覆してまでやるというのは無理があると思う。

【高橋会長】

次、「5 その他」に入る。「令和7年度三和区の主な行事カレンダーについて」事務局から説明をお願いします。

【小山班長】

「資料No.2」になる。こちらは、例年、各団体の協力のもと作成している。区内の各事業の開催予定日など、情報共有させていただく。町内会長には2月28日の町内会長協議会で配付している。作成に協力いただいた団体には3月10日付けで送付している。

【高橋会長】

質問等あるか。
(質疑等なし)

【丸田次長】

資料はないが、廃校の利活用の対話型市場調査を計画しているので説明する。

市では、公の施設が老朽化して、多額の維持管理費がかかってきている中で、令和5年度から将来的な財政負担を軽減するために、財務部に資産活用課を新設して、売却が可能な資産の処分等に注力をしている。少子化の影響から国では毎年450校が廃校になるという現状がある。市内の小中学校でも同様に廃校施設が増えてきているという状況の中で、行政用途への転用や民間事業者による利活用に取り組んでいるが、未利用の施設が多く残っている。そこで、令和7年度、民間事業者との対話によって、廃校の利活用への需要を探る廃校利活用対話型市場調査を実施することとしている。調査対象施設については、三和区の今回廃校となる上杉小学校と美守小学校を含む市内15の旧小中学校となる。今回は、調査が主な目的になり、良い提案が出てくれば地域とも協議の上、改めて譲渡や貸付について検討したい。参加対象者は、自ら資金を用意し、実施主体となる意向を有する法人又は法人のグループ、それら法人又は法人グループへの仲介事業者となる。自ら資金を用意していただくことが前提となる。

今後のスケジュールについては、対話調査の実施要領の公表を4月上旬、説明会の開催を4月下旬、現地見学会を5月、対話調査を6月に実施する予定にしており、調査結果については、市のホームページにて7月に公表する予定となっている。本調査の結果を踏まえて、廃校の利活用についての方向性について、検討をしていきたいと考えている。

なお、今日は資料がない中で話をしているが、この内容については、資料にまとめて来週にも委員の皆様へ送付させていただく。あわせて来月の地域協議会でも改めて説明をさせていただく予定としている。

【高橋会長】

近年、三和区では、米本陣の休止に伴いサウンディング型市場調査を行った経緯があり、令和7年度は新しい取り組みが始まり非常に喜ばしい。

次に、松井委員から発言の申し出がある。

【松井委員】

- ・三和区地域福祉活動計画ブロック別懇談会に出席した会場での参加者の発言等について発表と説明

【高橋会長】

次に、渡邊委員から発言の申し出がある。

【渡邊委員】

- ・4月6日（日）に開催される「さんわ桜の陣2025」の案内
- ・令和6年度上越市地域独自の予算事業補助金を活用して実施した「上沼道開通を見据えた三和区魅力発信事業」（提案団体：三和区地域協議会、実施主体：NPO法人三和区振興会）の中で、三和中学校生徒が取材・作成した三和区観光マップの紹介

【高橋会長】

次回の開催について事務局から願います。

【丸田次長】

令和7年度第1回になる4月の地域協議会だが、4月28日の月曜日でいかがか。

【高橋会長】

- ・日程調整
 - ・4月28日（月）、午後6時30分から決定
- 以上で、本日の地域協議会を終了する。

【龍池副会長】

- ・挨拶
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

三和区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-532-2323（内線215）

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。